

挑戦 挑戦

Vol. 11

発行日 平成 13 年 7 月 19 日

発行者 吉村研究室新聞委員会



屋上が改築のため、室内にて撮影。

第 11 号発刊にあたっての挨拶

研究室主任 吉村 昇

今年もまた研究室の新聞“挑戦”の発行時期となりました。卒業生、修了生並びにセンサー工学研究会の皆様にお届けする事になりますが、お変わり有りませんでしょうか。暑い日が続いて居りますが、体には十分に気をつけられて、精励されますことを祈念致しております。

平成 13 年度は 4 年生が 12 人配属となり、他の大学院生（博士課程:3 人、修士課程:10 人）と合わせて 25 人と例年通りの大所帯です。他には日本学術振興会博士研究員の熊谷誠治君が在籍し、ポリマー碍子の研究で電気学会をリードしています。今年は久しぶりに留学生も多く、博士課程には中国から余峰君と唐超君の 2 人、修士課程にはバングラデッシュからカビール君、4 年生にはマレーシアからサリモンさんと 4 人在籍しています。

12 人の 4 年生の内、7 人が大学院進学希望で、昨年とは全くの様変わりです。中には就職がうまくいかず、進学に回るといった学生も居りますが。大学院生、学部生とも就職希望者は全員内定しており、これで大学院進学希望者が無事合格すれば万々歳ですが。

鈴木助教授、水戸部講師、佐藤技官に私を含めた研究室スタッフ 4 人とも元気で頑張っています。私は今年度電気電子工学科の学科長を務めており、大学の最前線の現場での業務の多さにビックリしている所です。10

年振りの学科長ですが、10年前とは比較にならない位学部生の教育に手間暇が掛かっています。心の弱い学生の増えていることが最近の特徴でも有ります。いつも講義では、タフで赤黒き青年になれと叱咤激励をしては居ますが、全員がそうなることもかなわず、悩みの大きい問題です。研究の方は順調に推移しています。お陰様で、4人とも科学研究費、共同研究、財団奨励金、他に奨学寄付金と獲得しており、設備も充実し、成果もかなり挙げて居ます。

平成12年度は科学研究費で2300万円を取得し、走査型プローブ顕微鏡、比表面積計を購入しました。他にもレーザー計測計や光スペクトラムアナライザといった計器が入っています。もし使用したい方が居ましたら水戸部講師の方にお申し出下さい。

研究室一同、何事にも挑戦する気概で日々頑張りますので、今後とも叱咤、激励を宜しくお願い申し上げます。

くれぐれもご自愛下さい。メールでも結構ですので、お便りをお送り下さい。1年に1回だけの絆ですが、これを太くしたいものです。

感謝

吉村先生のご活躍

吉村先生、電気電子工学科長に就任!!

今年度の電気電子工学科長に、吉村先生が就任されました。一昨年に学部長を退任されたばかりですが、またお忙しい立場になられ、先生のそのenergy溢れる行動力とご活躍には敬意を表します。ただその反面、研究室に顔を出されたり、話し合ったりする機会が少なくなるのは寂しい限りです。来年には就職担当になられる予定であり、ご多忙な日々が続きますが、ぜひお体を壊すことのないよう気を付けて頑張ってくださいと思います。

研究室の出来事

乳がん検査に新兵器!!

我が吉村研究室と医学部の外科学第二講座(小川純一教授)が共同でゼオライトを利用した乳がん検査機器を開発しました(2001年5月10日 秋田魁新聞掲載)。これは以前から研究されていた『天然ゼオライトの遠赤外線放射による人体の加熱効果』を応用したもの。「遠赤外線を照射して体内を通常よりやや高温にし、血行を促進させ、体内温度を測定することでがんを発見する仕組み。」とのこと(秋田魁新聞より抜粋)。従来の検査機器に劣らない成果を上げている他、コスト面でも従来のものより安く製作できるそうです。このように日々の研究の成果が、記事として取り上げてもらえることは非常にうれしいことであり、鼻が高くなってしまいます。特に、ゼオライト関係の研究に従事していたOB・OGの皆さんにはうれしい報告になったのではないのでしょうか。



研究室HPに掲示板が出来ました。

もうすでにご存知の方がおられるかも知れませんが、今年から研究室のHPに掲示板が出来ました。近況報告などいろいろ掲示板を利用して頂ければ幸いです。アドレスは
<http://kc6.ee.akita-u.ac.jp>。



留学生紹介

今回は、今年4月に来られた唐超(トウ チョウ)さんを紹介します。唐さんは、本研究室に来られる前にも日本に滞在されていたことがあり、日本語を話すことができるので、早くから研究室に打ち解け、今では4年生や他の院生の方々と気軽に話せるようになっています。現在、唐さんは研究に必要となるプログラミングやレーザーフォーカス変位計の操作方法などの勉強をしています。唐さんは研究に対して熱心に取り組んでおられ、いろいろなことをぐんぐんと吸収しているので、周りにも良い刺激となっています。

以下の文は唐さんに書いて頂いた自己紹介文です。唐さん、貴重な時間を割いて自己紹介文を書いて頂きありがとうございました。

私は唐超と申します。生年月日は1965年12月22日です。今年で36歳になります。

出身地綿陽市は、四川省四川盆地の成都平原の北端に位置し、省都である成都市から98km離れています。綿陽市の直轄面積は2000km²で、総人口510万人、市内部の面積60km²、人口66万人です。この地方は、三国志に言う蜀の国の中心部に当たり、それに関する名所や旧跡が多く残されています。

1986年7月にハルビン理工大学を卒業しました。専門は電気材料工学絶縁技術です。

1991年1月～4月に岐阜国際日本語学院で勉強して、1992年10月まで理研電線(株)で研修しました。

その他、四川東方絶縁材料研究所で仕事をしています。

現在は秋田大学鉱山学研究科博士後期課程1年生で、研究内容は『イオンマイグレーションの三次元構造解析』です。

趣味は旅行と登山です。

家族は3人で、妻は四川東方で対日本に関する仕事を、娘は小学一年生です。

最近の秋田市

卒業生・修了生の皆さんの中には、秋田に在住の方もしくは秋田に出張の多い方などを除いては最近の秋田をよくご存知でない方がおられるのではないのでしょうか？そこで今回はそんなOB・OGの方々のために、最近の秋田市を紹介します。



新幹線が開通してから秋田市、特に秋田駅前への発展には目紛しいものがあります。何年か後には、駅裏にも大きなビルが建設される予定であり、今年は夏にワールドゲームズが開催(あまり全国的に有名ではないようですが)されます。

駅のホームから続くアーケードが本金西武まで続いています。天候の悪い日でも雨に濡れることなく駅からイトーヨーカドーに入ることができます。この道は“ポポロード”とネーミングされ、ギターを持った若者や買い物途中のおばさん等、多くの人で賑わっています。



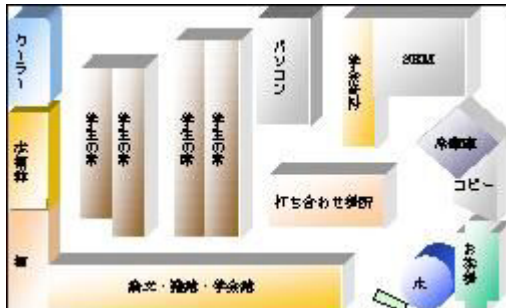
これが秋田駅内です。改札前にはキヨスクだけでなく、無印良品などの雑貨店もあり便利です。駅ビルだけでも人によっては(?)結構、楽しめると思いますよ。ここを通過して、東通にも中通にも行けます。バスターミナルや駅前道路の上を通過しているので、煩わしい信号も関係ありません。

以上、秋田駅前を紹介しましたが、駅前だけでなく郊外には大型のショッピングセンターもできたり、今までは片道1車線だった秋田道も2車線になる予定ですので、機会があれば皆さんも秋田を訪れてみてはどうでしょうか？



研究室の様子

今年は4年生の配属が12人と例年よりも少なかったものの、Dr・M2・M1と合わせて25人と相変わらずの大所帯です。例年のような大きな部屋移動もなく、快適に暮らしております。以下、簡単に各部屋の様子を報告します。

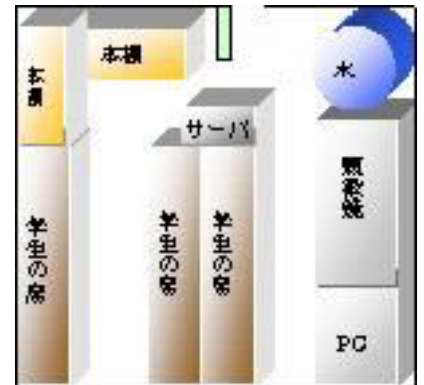


319号室

15人の学生を収容する一番大きな部屋。クーラーがあるため、夏も涼しく(?)研究に打ち込むことができます。最近では雑誌の数が増え本棚から溢れ始めているような気も…。パソコンはWINDOWS2台、LINUX2台があり、パソコンのない学生にも安心です。

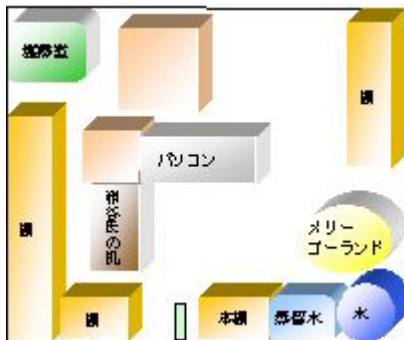
306号室

機器研からお借りしている部屋です。網戸も完成して夏も快適(?)に暮らせるようになりました。留学生が3人在籍していて国際色豊かな部屋です。主に絶縁関係、生体・ゾルゲル関係の学生がいます。サーバが置いてある部屋であるため、サーバが飛ぶ度にこの部屋に走り込みます。



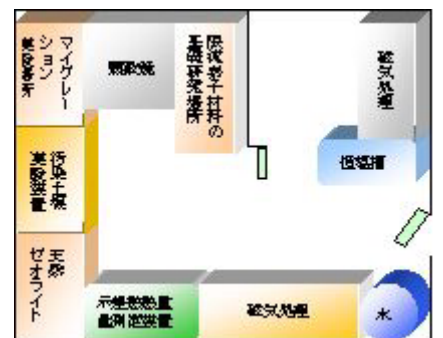
317号室

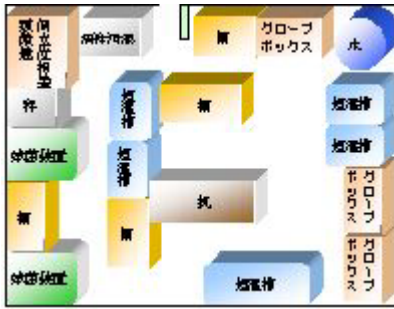
高電圧・絶縁関係の実験室。また研究員の熊谷誠治氏の部屋でもある。絶えず、『バチバチッ!!ギガギガッ!!プシュ~!!』という音が聞こえ、近寄りたがたい部屋。余談ではあるが、研究室の某A氏は「熊谷さん、子供できたけど、ちゃんと相手しているかなあ~?」と心配していた。



320号室

様々な分野の研究が行われている実験室です。磁気処理、天然ゼオライト、汚染土壌、限流素子やイオンマイグレーションなどの研究が主に行われています。昨年は恒温槽の中に凍結していた水が溶け、2階にまで浸透したという出来事がありました。そのためか今、恒温槽を使っている気配は微塵にも感じられません。



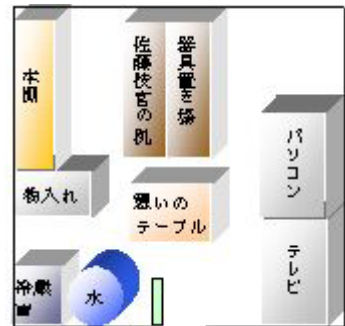


316号室

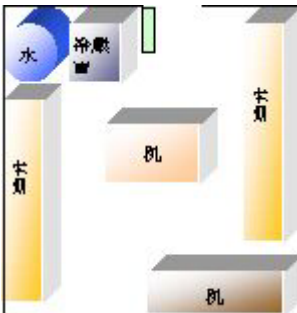
バイオ・ゾルゲル関係の実験室。「これでもかっ！！」というくらい恒温槽があります。最近また、新しい恒温槽を入荷したらしい。
 またゾルゲル班の残っていた薬品ビン等が数多くあるため、少し危険なニオイ(?)を感じます。
 なぜか入り口付近のグローブボックスは薬品入れと化していました。

318号室

“忠さん”の愛称でお馴染みの佐藤忠雄技官のお部屋。コピーカードやデジタルカメラなど備品があるため、学生も度々出入りします。かなりお世話&ご迷惑になっています。お昼になると憩いのテーブルに座り、NHK連続テレビドラマ小説を堪能。



307号室



水戸部先生のお部屋。OB・OGにはゼミ室と言った方が分かりやすいかもしれませんね。ゼミ室時代と変わらない本・雑誌の量にはただただ驚くばかり。頭が上がりません。また訪れれば、お茶菓子が頂ける可能性が大！！OB・OGの皆さん、訪問されてみては？

321号室

言わずと知れた工作室です。しかし最近は工具がだんだん少なくなっているような気が・・・。
 探索するとこれはなんだろう？という物が発見される場合も。



以上の他に308号室(暗室)がありますが、暗室というよりは“物置”と呼んだ方が適切です。何がなんかわからないので、研究室に訪問なされた際は探検してみるのも面白いかと思います。ただよくわからない薬品ビンなどもあったので、命の補償は致しませんが・・・。

年間行事(2000.8 ~ 2001.7)

8月 戦士たちの束の間の休息。4年生には毎年恒例の中間発表、最初の山場で重圧と暑さでもうタジタジ。

9月 大学院進学に2名決定するも、進路未定4名と相変わらず厳しい就職状況。

10月 事前の宣伝の効果もあってか、オープンキャンパスによる研究紹介は大盛況。しかし、みんなパネル作りに大忙し

11月 ボーリング大会で吉村研究室大ブレイク!!個人賞1・2・3独占、もちろん総合優勝も。その後の打ち上げではみんな飲めや歌えの大騒ぎ。

12月 冬期中間発表も無事終了し、忘年会では現実逃避。

1月 新世紀を迎え、みんな何かに期待するも何も起こらず。あるのは修論・卒論のみ。24時間フル稼働で研究に没頭する。

2月 遅ればせながら、1名の大学院進学が決まる(ギリギリセーフ!!)。修論・卒論発表が行われ、いろいろあったが皆無事に終える。しかしその後ハプニングが!!(何かは秘密)。ホッとするも束の間、論文作成に追われる。

3月 快晴の春の良き日に、卒業及び終了式が行われる。研究室で苦楽を共にした仲間が、様々な思いを胸に秘め、新天地へ巣立っていくのであった。しかしその裏では電気学会のため、発表者が静かに会場の名古屋へ旅立っていった。

4月 新しく12名の4年生、2名のDrが配属される。14名のうち留学生が3名と、合わせて4名の留学生がおり、国際色豊かである。

5月 新世紀ということもあってか(あまり関係ないかも)、就職は困難を極める。

6月 4年生も研究室に慣れ、穏やかな日々が続く。就職も決まりだし、大学院生はセンサ研に大忙し。

学生の挨拶

学生代表 佐藤 弘樹

研究室の諸先輩方、関係者の皆様、暑中お見舞い申し上げます。今年は21世紀最初の夏ということもあり、各地で様々なイベントが行われていますが、皆様方は如何お過ごしでしょうか？研究室では、近年のIT化の影響(?)のためかパソコンも一人一台となり、そのため非常に暑い夏が続きます。

吉村研究室は今年度も例年通り、非常に国際色豊かな研究室となっています。留学生も中国から2名、バングラディッシュから1名、マレーシアから1名が研究室に在籍しています。さらに“鉱山学部”ではなく“工学資源学部”の4年生12名が研究室に配属され、事実上新しい学部に変更になったと強く感じます。カリキュラムもこれまでは異なるため(ゼミが授業の一つとなる等)、吉村先生始め研究室の先生方もお忙しいそうです。就職については相変わらずの就職難であり、今の状況がしばらく停滞するような気がします。その反面、大学院修士課程へは7名が進学予定と現在の就職状況も考慮してか、進学してこれまで以上に勉学に励もうとする学生が吉村研究室に限らず、学生全体を通して多いようです。

研究室代表に就きまだ3ヶ月あまりですが、先輩並びに同輩に助けられてばかりで後輩にも非常に迷惑をかけています。まだまだ至らぬことが多いありますが、21世紀最初の吉村研究室生として、他の学生一同、研究並びに責務に尽力し邁進していきたいと思っておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



編集後記

西日本に大きなダメージを与えた梅雨も去り、本格的な夏を迎えようとしています。研究室のOB・OGの皆様方も寝苦しい毎日を過ごしていることと思います。

“挑戦”第11号はいかがだったでしょうか？今回は秋田市の町並み(駅前のみ)や研究室の様子などの載せて見ました。秋田市の様子などはこれから引き継ぎ、秋田市にお住まいでない方・来られない方の為に続けていきたいと考えています。

今回の研究室のご意見・ご感想等は、下記の連絡先またはHPの掲示板へお願いします。たくさんのご感想を心よりお待ちしております。

最後になりましたが、快く寄稿を引き受けて下さいました吉村先生、記事のチェックをして頂いた水戸部先生及び各編集委員の皆様、研究室の皆様へ感謝の意を表し、編集後記とさせていただきます。

(M2 猪俣)

〒010-8502

秋田県秋田市手形学園町1-1

秋田大学工学資源学部電気電子工学科

電気エネルギー工学講座 吉村研究室

水戸部 一孝

E-mail kazu@kc6.ee.akita-u.ac.jp

吉村研新聞委員会

顧問	水戸部 一孝
編集委員長	猪俣 仁吉(M2)
副編集委員長	斎藤 和久(M2)
編集委員	カビール ムハムドゥル(M2)
	栗原 大輔(M1)
	吾妻 辰則(E4)
	サゼリナ サリモン(E4)
	遠藤 幹雄(E4)